

平成20年度 自己（内部）評価書

北海道旭川東高等学校全日制課程

分 掌 等	項 目	反 省 と 今 後 の 改 善 策
1 総務部	(1)校務の円滑化	・各分掌、各学年との連絡を密にして、早めに計画を立て、準備を進めた。今後もスピーディーに対応したい。
	(2)学校説明会	・体験授業の実施など内容を大幅に変更して改善に努めた。次年度も今年度を踏襲し時間を短縮して実施したい。
	(3)文化講演会・PTA 教養講座	・内容について全体に諮らず計画を進めた。今後はよりオープンに内容を検討していきたい。
	(4)規定集の整備	・内容が古く実態にそぐわない状況がある。次年度中に整備を完了したい。
	(5)避難訓練	・年2回実施し、2回目は救助袋を使用した避難実演訓練を行った。次年度は消火訓練等を検討している。
2 教務部	(1)教育課程	・教育課程委員会との連携を推進し、多様な進路希望に対応できるよう、研究を継続する。特に、医進類型の少人数指導については次年度以降も継続する。
	(2)校内研修	・年1回の実施となり、不十分であった。次年度初めにアンケート等により先生方の希望をとり内容の充実に努めたい。
	(3)授業評価・公開授業	・教科により意識の差がある。教科内で研修を積み効果的な方法について検討する必要がある。
	(4)成績処理等に関するPCの活用	・現行のシステムに頼ることは危険であり、引き続き図書視聴覚部連携をとり検討していく。
	(5)多様化に対応した指導	・不登校生徒指導については、特別指導委員会との連携を強化していく。 ・生徒の実態調査をスタディーサポートの継続として実施し、結果と共に全教員が活用できる資料としたい。 ・教科担任連絡会議は情報交換の場として有意義であり次年度以降も継続して実施したい。
	(6)入学者選抜	・学校裁量（学力重視、学習重視の比率）については継続して研究していく。
3 生徒指導部	(1)基本的な生活習慣の確立	・挨拶の励行については高い評価をえている。今後は、遅刻、服装、頭髪に関して、特定の生徒に対して継続指導が必要である。
	(2)自主性の育成	・学校行事などで、生徒が自主的に活動する場面を設定することが必要である。
	(3)生徒会行事	・合唱コンクール（3年生の服装）、学校祭等に関わる経済的負担が大きくなっている。行事の負担については、アンケートをとるなど生徒に考えさせて改善していきたい。
	(4)健康安全指導	・交通マナーの遵守については指導が不十分である。交通安全を意識し、生命を尊ぶ精神の育成に努めることが必要である。 ・3年に1回の防犯教室を実施し、不審者等への対応を学習した。今後も定期的の実施したい。 ・今年度はじめて薬物乱用防止教室を開催した。今後も毎年実施の予定である。
	(5)卒業式の服装	・3学年とPTA学年委員会の行動連携により華やかな服装は一掃された。今後は、生徒指導部の主導により、学年とPTAへの働きかけをしていきたい。

分掌等	項目	反省と今後の改善策
4 進路指導部	(1)進路指導全般	・生徒の進路実現を図るため積極的支援を行い高い評価を得ているが、さらに指導の充実に努めたい。
	(2)業者模試	・手に余っている生徒も見られる。模試の意義、その回ごとの目的を生徒に伝え、選定は学年と十分協議していく。
	(3)進路集会 進路だより	・十分行われ、大きな効果をあげているが、担当教員の負担は大きい。学年独自の集会を行ったり、様々な教員が話すなど業務を分担する必要がある。
	(4)小論文指導	・十分行われ、大きな効果をあげているが、3年担任の負担は大きい。担任業務の忙しい時期には副担任の協力が不可欠である。
	(5)大学との連携	・様々な新しい取組をし、生徒の進路意識の深まりが感じられる。今後は北大希望者に対する行事（北大セミナー以外）を検討していきたい。
	(6)職業セミナー	・1年生職業セミナーは同窓生を中心に講師が増え内容も充実してきている。さらいい形を模索していきたい。
	(7)資料の編纂	・「進路指導資料」「先輩が後輩におくるわが受検の記」「進路指導実践記録集」は貴重な資料であり、今後も内容の充実に努めたい。
	(8)浪人生指導	・予備校訪問は、浪人生の激励の意味でも大きな効果をあげている。今後も継続し指導していきたい。
5 保健部	(1)健康相談	・日常的に実施。特に大きな行事の時は保健調査票を活用して事前相談を実施し効果をあげている。今後も複数の目で生徒を見ていきたい。
	(2)教育相談	・スクールカウンセリング事業を32回実施。生徒、保護者、教員の心のケアのうえで大きな効果をあげている。今後も継続していきたい。
	(3)環境整備	・清掃活動を通して校舎内の環境整備に努めている。先生方も協力的であり、今後も清掃活動は生徒と教師が共に行う活動であってほしい。
	(4)啓蒙・広報活動	・保健だより通算13号、カウンセリング情報通算4号を発行した。今後も内容の充実に努めたい。 ・保健講話（1年生）については、内容と開催時期を検討しながら今後も継続したい。
	(5)特別指導委員会	・認定機関として、主管を教務部に移し、保健部は教育相談部分を重点的に行うようにした方が妥当と思われる。
	(6)不登校生徒への対応	・学年、担任、養護教諭の連携を強化するため、学年副担任から係を2名選出し、学年保健部員との3～4人で担任を補佐・支援するチームを編成する。
6 図書視聴覚部	(1)図書室利用	・各教科との連携が十分でなかった。今後より連携を図りたい。 ・蔵書入力、図書目録作成は順調に進んでいる。 ・新聞コラムは、小論文情報と連携し提供できた。今後も継続していきたい。
	(2)委員会活動	・図書館報の発行など活動は円滑に行われた。今後は、各種大会や研修会への参加を奨励したい。
	(3)ホームページ	・HPをリニューアルした。今後は内容充実のため分掌・学年等の協力が必要であり、学校全体での共通理解が必要である。

分掌等	項目	反省と今後の改善策
	(4)成績管理システム	・教務部、進路指導部等と連携を進め、新システム導入に向けて検討していきたい。
	(5)個人情報	・個人情報等の取扱については、保護者宛に文書を配布し理解を求めた。今後は、学校としてのガイドラインを策定したい。
7 学 年	(1)第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・学年団として機能するためには何よりも情報の共有が必要であるが、担任からの情報が不十分であった。今後は、担任会議の報告を確実にすることや、スタディーサポート等の資料を誰でも見ることができるような環境整備が必要である。 ・面談については良く実施することができ、生徒理解に繋がり、学習意欲に変化が見られるなど効果があった。
	(2)第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・見学旅行は計画的にも内容的にも良かった。特に長崎のでの平和学習は非常に意義深いものになった。 ・不登校傾向の生徒が増加している。学年団での情報共有と共通理解を一層深め、スクールカウンセラー、養護教諭等との連携を密にしていく。また、保護者との連絡を密にしながら学校と家庭が一体となった指導を展開していくことが大切である。
	(3)第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・新課程の生徒の特徴と思うが、与えられたことはできるが、それ以上のことを積極的にできないし、粘り強くない。積極性を促す指導が必要である。 ・『卒業生による講演会』は好評であり、引き続き実施してほしい。 ・卒業式の華やかな服装については、PTA の協力により一掃することができた。今後も PTA との連携が必要である。
8 教 頭	(1)学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の多忙感・疲労感の改善と健康面のメンタルヘルスに努めたい。 ・教職員の時間外勤務等の縮減に努めたい。具体的には、諸会議の議案の検討、精選。PC の活用による効率化等。 ・部長主任会議の検討事項が部員に十分伝わっていない。報告・連絡・相談の徹底を図りたい。
	(2)開かれた学校	・情報の発信に努めたい。(ホームページの更新、学校説明会、PTA だより、公開授業、各種講演会等)